

街村に就いての研究(二)

櫻井 靜

三、街道と聚落形態との關係

街村の主要なるものについて、その特性を吟味し、街村の一般性を見出すことに注意したのである。更に残された問題は、街村と呼び得るものゝ範圍を決定することゝ、街道と街村との關係の問題である。

交通路の原始的形態は、綿貫勇彦氏⁽¹⁾が記載してゐる如く、田舎道と言はれる程度の、計畫的のものでないのであつたに違ひない。計畫的でないばかりか、近距離の交通により重要な價值があつたから、道路は曲り曲つて村と村を結んでゐた。かゝる場合には街村の形態をなすものは少ないであらうが、最も位置的に優れた所に市場が発達したとすれば、街村の如きものが

發生し得ると思はれる。武藏野の線狀開拓村落は、純農村地に見る網狀村落の如く或は塊狀村落の如く職能上同一のもので、直線狀の聚落をなしただけである。街村の特性として記述したのものによつて見れば、直線狀の聚落であるといふこと一つの特性を有するのみである。街村の特性は其の他には全く見出すことが出来ないのである。

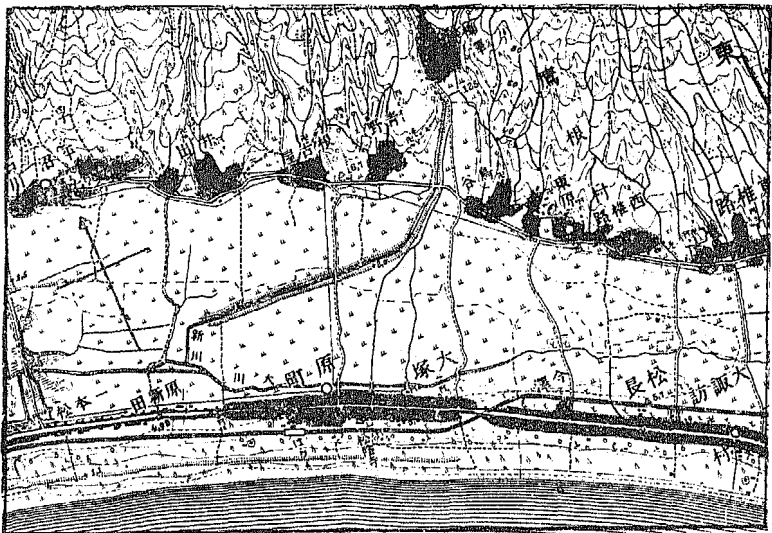
街道と呼び得るものは、遠距離を結ぶ主要なる交通路であつて、この街道の交通的價值に依存して、聚落が發生し發達を遂げるといふことが思考し得るのである。従つて小聚落であり、農業に従事するものがあつても、街道に沿つた村落の特色は街道によつて多大の影響を與へら

れてゐる。家屋が道路に直面すること、商店の数が多くこと、家屋が密集的事であること等の特色を示すに至るものである。従つて農業的職業を主とする小聚落が、何れも道路に直面することなしに疎に連つてゐる時は、街村の特性は矢張り發見し得ない。従つて前述した兩側村の一例である三富新田の中富に於いて、その中央道路が新たに開通した道路（主要街道）の一部となつて、交通的に價値を増した場合にも、街村化の状態がある程度まで見られない限り街村とは稱し得ないことになるのである。

第七圖は愛鷹山麓地方の地圖で、山沿の聚落列と海岸に接した街道筋の聚落とがある。この關係については綿貫氏が記してゐる様に地形に密接な關係を有してゐる。愛鷹山麓の聚落は山沿の道路に沿つて續いてゐるが、農業を主とするものであり、道路に直面してゐるものではないから、街村とは稱し得ない。山麓の位置といふ點に、より重要な特性を見出し得るもので、

第七圖 根通村落と街村

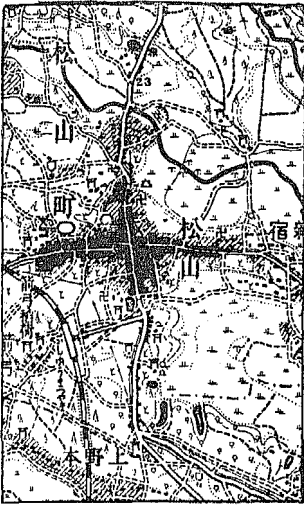
（愛鷹山麓に發達した村落と、東海道に發達した原町等の街村）



武藏野北部の加治丘陵の南にある村落列に對して呼んだ根通村落に相當してゐる。之に反して海沿ひの村落は街村をなすもので、原町の宿場町も、漁家と農家とから成るといふ他の聚落列も、共に街村である。この漁家が網を曳くよりも魚を取り寄せて商ふことは、明らかに街村のもつ特性を物語るものである。

街村が次第に發達してその形態が複雑となり、都市的變化をなす場合には、街村のもつ特色ある狹長形態は失はれるものである。第六圖に

第八圖 十字型街村（埼玉縣松山町）



示した龍ヶ崎町は丁字型街村をなし、第八圖に示す如く埼玉縣松山町は十字型街村の平面形態的特色を有してゐる。かゝる形態上の複雑化は街村の特色を早晩失はざるを得ない。中山道の街村として發達した熊谷市・大宮町（第九圖）・浦和市等は、街村の形態を消失して都市的形態を完備してゐる。従つて龍ヶ崎町・松山町等は街村としては發達の頂點に近いものの形態であら

第九圖 街村の都市的遷移の一例

（奥野町と大宮町）



う。この點について見る時に、小聚落であつても都市的の複雑した——裏通りの多い——形態をなす場合には、街村をなさない場合がある。

(6) 街村の分布について論じた佐藤教授によれば、北日本殊に奥羽地方の如き殖民的地方に多く、南日本には少ないといふ。前述した如く、街村の形態は次第に發達するに従つて都市的形態への變化をなすものとすることを認むる場合には、南日本に少なく北日本に多いといふ結論を説明し得るのである。

四、街村化について

Ⅰ 都市化と街村化

(6) 小川博士は我が國の村落及び都市の成立と發達の關係について注意せられ、『田園生活から都市生活に遷り行く一般的趨勢を指示する現實の形相』を村落の都市化作用 Urbanization of villages と稱せられた。この都市化は聚落について如何なる平面形態的變化を持ち、聚落の景觀を改めて行くであらうか。東京市の周圍に就

いて見るならば、東京市に集中する主要街道には特に人家が密集して外部に發達する。平面形態と同時に立面の形態を都市的に變化せしむるのであつて、都市化を最もよく指摘し得る所は、かゝる大都市周圍の交通路に接した地帯である。小川博士が注意された如く、都市化作用は田舎から都市に近づくに従つて大となり、特に大都市、府縣の中心都市、交通の要衝に當る處等の周邊に於いてよく看取することが出来る。之を廣義の都市化作用として次のものと區別することにする。

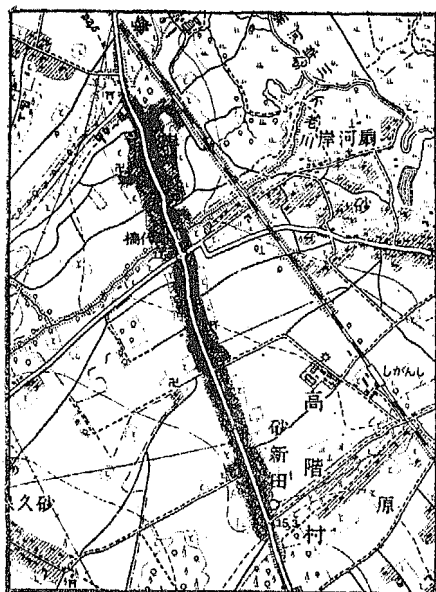
この都市化作用は大都市の周邊以外に於いては、交通に大きな關係をもつた所に認め得るのである。その一つは驛前聚落であり、他の一は街村である。街道に沿つた聚落が都市化作用によつて、人家が道路に直面したり、商業的色彩を呈するに至ることは顯著であつて、街村の發達を促すものであるから之を街村化として區別した。

街村化は、街道のもつ交通上の價值によつて受ける所の、田園生活より都市的生活に遷移せんとする現實の形相である。街村化の最もよく見られる所は、主要街道沿ひの部分であつて、地圖上には街村の發生及びその發達を認め得るのである。街道に依存して聚落が發達し、商業的色彩を呈するに至るものであつて、その聚落景は都市的景觀を有するに至る。街道に沿つて狹長形態の聚落が次第に發達するもので、水田地の場合には埋立が行はれて細長く伸びて行く。主要街道が聚落景の變遷に及ぼす影響の著しいことは、彎曲をなしてゐた街道の村落に新たに街道が通じた場合、彎曲部の截斷された聚落が衰頹することによつても知られる。之は河川の Meander によつて分離された三日月湖の如き部分に當るものである。街村化によつて街村の發達が促された場合には、街村は地方的に或は一小局部的に經濟上の中心地をなさんとする傾向が認められる。従つて街村化のもつ特

色の主なものは、農業的職業に依るものではなくして、商業的職業によつて示現せられてゐるのである。

以上の如く都市化と街村化を比較することによつて、街村發達の根本問題を考察したものであり、街村の意義を確立せんことを望んだのである。文化の影響は街道によつて強く受けるも

第十圖 街村の發達（川越街道の街村化）



のであるから、聚落景の變化を平面的に立面的に論ずることが必要となつてくる。また、地方經濟の中心に遷移せんとする特性は、商圏の精細な調査に俟たねばならない。街村の發達が、ある程度の等距離的存在は、街村研究の極めて興味ある問題である。之は宿場町としての發達と、其の他には經濟的中心地としての理由が主要なる原因をなすものであらうと思ふのである。

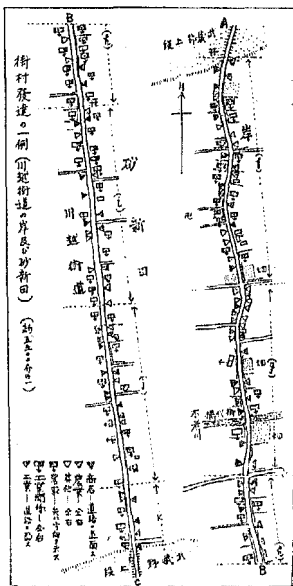
II 街村の特性

街村は獨逸語の Strassendorf 或は Gassendorf⁽¹⁾であつて、Jean Brunhes 教授が述べてゐる如く、道路の影響によつて往來に沿うた聚落形式に對しての名稱でありとするならば、今こゝで論じてゐる街村と内容上同一のものである。村松繁樹氏は、本邦の田園村落の形態に對する概括的考察に於いて、交通關係に注意せられた。我が國の村落は、その家屋が木造小屋で移轉し易い特性がある爲に、交通路に沿ひ所謂街村の發達をなす傾向があることを述べて居られる。

こゝに外國の場合とは異なる點があるものであるから、街村の意義も必然變更を認めねばならない。英語で言ふ Road-village, Street-village について見るならば Street-village がこの場合の街村に相當するものと思はれる。

本邦の聚落は、その家屋が木造で移轉し易いといふ特性が、街村の著しい發達を促す主要なる原因をなすことは否定し得ないのである。街村への變化について注意するならば、家屋が如何なる形態上の變化をなすかを見れば明らか

第十一圖 街村發達の一例



である。街道筋に移轉して家屋の新築を見たり、街村の發達に促されて農家に至るまで街道沿ひの直面する家屋をなすに至ることは、木造であることに依ることが著るしい。家の周圍にある塀の如きも、相當立派なものが使用されて來たりするもので、街道に對しては強い關心を持つことを示してゐるのである。

第十圖は川越街道に發達しつつある街村の一例で、岸は川越市に屬するものであるが、聚落の状態から見れば高階村の砂新田に續いた一つの街村である。その境界は不老川に依つてゐて前多摩川の侵蝕によつて生じた武藏野下段に位してゐる。岸の北部と砂新田の南部とは各々坂があつて、武藏野上段に通じてゐる。第十一圖によれば、この線狀聚落のもつ特性は明瞭であつて、岸は砂新田に比して街村化が著るしい。砂新田は比較的新しい聚落をなすもので、近來別珍織物の工業に従事する者が増加を來して街村としての發達を促進した。然しながらこの工

業化は著るしいにも關らず、景觀上に就いて言ふならば變化の程度は僅少であつて、農家がその儘工場として使用されてゐることに依つてゐる。街村化を明示する聚落景の特色は次の如きものである。

A 道路に直面した家屋數とその密集度。

B 商店の多寡。——家屋數の最大限度に對しての割合。

C 聚落の立面景——靜的景觀と動的景觀。

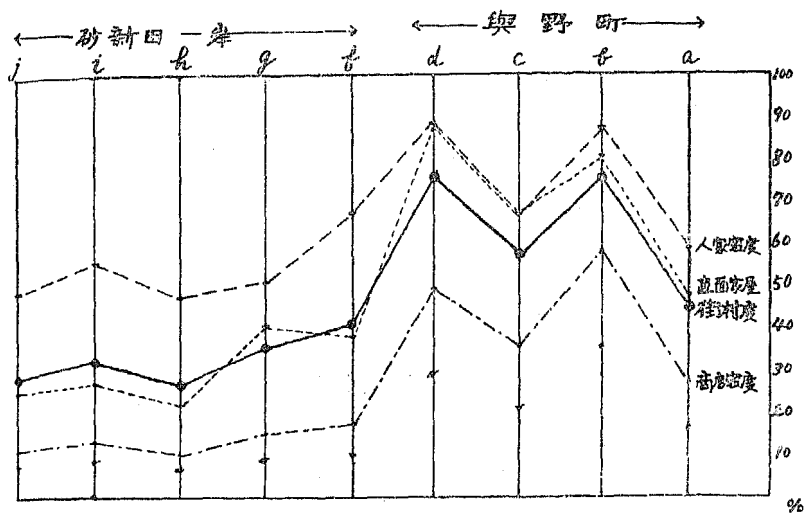
この場合に於いてはCは考慮することなくA及びBについて見ることにした。第三圖に示した與野町の圖について、a・b・c・dの四つの等しい距離をもつ區域に區別して街村化を調査した。この場合、與野町に於いてはその各々の距離について、六〇戸の家屋がある場合が最高であるといふ計算されたからで、この基本數は家屋の大小によつても決定されるものであるから、この調査のみに於いてのみ假に使用することにしたのである。岸及び砂新田に就いても、等しい

距離（歩測三六〇歩）を取つて f・g・h・i・j 等に區分して與野町の六〇戸の數をその儘使用した。

備考	田新砂び及岸					町野與				聚落	
	j	i	h	g	f	d	e	b	a	位置	家屋
	二九 (〇・四八)	三三 (〇・五五)	二八 (〇・四七)	三〇 (〇・五〇)	四〇 (〇・六七)	五三 (〇・八八)	四〇 (〇・六七)	五二 (〇・八七)	三五 (〇・五八)	數	家屋
①人家數の多寡と直面家屋及び商店數を以て街村化を示すものとした。 ②その距離はすべて歩測によつたものである。 ③人家の密集の最大なるものを六〇戸とした。 (與野町の調査)	一五 (〇・二五)	一六 (〇・二七)	一三 (〇・二二)	二四 (〇・四〇)	二二 (〇・三七)	五三 (〇・八八)	四〇 (〇・六七)	四八 (〇・八〇)	二八 (〇・四七)	直面	家屋
	七 (〇・一一)	八 (〇・一三)	六 (〇・一〇)	九 (〇・一五)	一〇 (〇・一七)	二九 (〇・四八)	二一 (〇・三五)	三五 (〇・五八)	一六 (〇・二七)	商店	家屋
										數	家屋

第十二圖は右の調査に基いた表であつて、人家の數・直面家屋・商店の數等を六〇の可能密度に對してその百分比を示した。この三つの百分比を平均したものを取つて街村度となしたのである。この街村度の示す數は、聚落の立面形のもつ感じをある程度まで示した様に思ふのである。同圖について與野町の e 部は市場空間の部分であり、d はその南部を占めて居て最も著しい部分である。砂新田の h i j 等は街村らしい感じは有してゐるけれども、その程度は著しく小となつてゐる。従つてこゝに計算した如き方法によつても、街村度が一〇%以下の場合には、街村らしい感じは全く失はれて來る。川越街道の南部に位してゐる野火止の聚落は、開拓による聚落であつてその中を街道が通じてゐる。道路に直面した家屋も少なく、商店も極めて少ないので、街村らしい感じは著るしく缺けてゐる。前述の方法は一つの方法として記述したに過ぎないもので、一層精密な調査研究をな

第十二圖 街村度 (家屋数・直面家屋・商店等の百分比の平均)



地球

第二十三卷

第四號

三

五四

したならば、所謂街村の定義も數量的方法に依つて明示し得るものと信じてゐる。

五、結 論

街村の主要なるものについて調査した結論は 1 狹長なる平面形態を有する聚落であり、2 交通の著るしい街道に依つて發達したもので、3 地方經濟の中心をなすものであるから與野町・上尾町の如く市場町となり、4 家屋が道路に直面し且つ密集的で、5 商業的職業を主とするもの等であつた。この觀點に依つて論ずるならば武藏野の線狀開拓村落・愛鷹山麓の根通村落の如きは街村ではなく、街村とは交通路に密接な關係をもつて發達した商業的色彩の著るしいものでなければならぬ。

街村が發達すると都市的形態への遷移が見られるもので、龍ヶ崎町の如く丁字型街村が發生し、松山町の如く十字型街村となる。複雑な形態を有するもの程、街村としての特色は失はれるものであり、裏通りの數を増すに至れば都市

的變化を示したのである。従つて街村と稱し得る聚落にはある限度があり、その爲に街村化についての調査を必要とした。與野町と川越街道に發達した聚落について、街村度の調査をなし

て街村の定義を數量的に決定せんとしたものであるが、この方法は將來の調査と研究に俟たねばならないもので、容易に到達することは出来ない。將來とも、かゝる數量的調査をなすことによつて、餘りにも漠然とした術語の内容をある程度まで限定し得る程度のものであるかも知れない。この調査をなした出發點は、街村の特色である。a 道路に直面した家屋、b 商店の多寡、c その各々についての密度等であつて、商店以外の職業についても注意する必要が多分にある。この調査によつて街村の意義を定義すれば次の如くである。

街村の定義——街村とは、都市化作用によつて生ずる所の、街道の交通的及び商業的價值に依存して發達した狹長形態の聚落で、之を構成

する各家屋は道路に直面し且つ密集的であり、商業的職業を特色となすものである。

参考文献

- ①萬國地理學會 農村居住委員會報告 第二・第三報告 地理學評論 昭・七(八卷) 一三五—一四五
- ②佐々木彦一郎 人文地理學提要 昭・五 一五六—一六〇
- ③草光繁 臺地村落の形態 地理學評論 昭・七(八卷)三四九—三六五
- ④拙稿 武藏野臺地の村落 地球 昭・九 三六四—三七五
- ⑤松尾俊郎 聚落の諸問題 地理學講座 第七回 昭・六
- ⑥佐藤弘 本邦に於ける街村の分布 地理學評論 昭・五 一一〇—一一〇八
- ⑦能登志雄 武藏野臺地の街村に關する研究 地理學評論 昭・一〇 (四八—六五)
- ⑧田中啓爾 相模原 地理學評論 昭・二 五七六—五七七
- ⑨綿貫勇彦 聚落地理學 昭・八 九四—九六
- ⑩小川琢治 人文地理學研究 東京 八三—八四
- ⑪Jean Brunhes: Human Geography P. 175
- ⑫村松繁樹 本邦田園村落の形態に關する一考察 地理論叢 第一輯 昭・七 二九〇—二九一

第四號 街村についての研究 (一) 正誤

五二頁 Lefèvre
Sylvester